

施策評価シート《マネジメントシート》

施策名	道路の整備			
施策の体系	基本目標	ひとが賑わうまち	施策の担当課名	土木課
	基本施策	インフラ整備プロジェクト	関係課名	高速道・国県道対策室
	施策コード	A-1-5	シート作成者名	龍王憲和

① 施策の現状と課題	<p>本市には国道が4路線あり、南北方向に国道10号・市街地には国道496号・推田道路の3路線が北九州と大分を結び、国道10号を起点として東西には国道201号が筑豊地域・福岡市へとつながっています。その他、主要地方道5路線、一般県道11路線、市道については、2,139路線の571.5km（平成22年度末）となっています。</p> <p>国道については、国道10号の4車線化が完了し、渋滞の緩和が図られました。また、国道201号の交通の分散や本市の東西の交通網の充実に向けて国道201号バイパスの整備が進められています。</p> <p>また、東九州自動車道は東九州地域の発展に欠かせない高速自動車道であり、本市には、吉国地区に行橋インターチェンジ（仮称）が整備されていますが、中心市街地の拡大に対応し、みやこ町・田川方面への地域連携に重要な役割を担っている幹線道路、県道行橋添田線へ連結する行橋P Aスマートインターチェンジ（仮称）の整備も行っています。</p> <p>地元では、国・県道を含むアクセス道路の完成への期待が大きく、引き続き早期完成に向けた取組みを行う必要があります。都市計画道路は、25路線49.5kmを都市計画決定しており、整備率（平成22年度末）は22.1%となっています。東九州自動車道、北九州空港に対応した、都市計画道路行事西泉線（国道496号）の延伸整備が行われていますが、新たな広域交通ネットワークの整備や工業団地、自然公園などへのアクセス道路の整備も求められています。</p> <p>市道については、市民にとって最も密着した生活道路であり、道路新設・改良・維持修繕など計画的な道路整備を推進していますが、路線延長の約36%が未改良の狭隘な道路であり、約14%が未舗装となっています。</p> <p>また歩行者の安全確保と円滑な交通を図るため、道路の整備はもとより、歩道・自転車道の整備やバリアフリー化などの整備が求められており、安全で安心な道路網の整備が必要となっています。</p>
	② 施策の基本方針

③ 施策の内容 (主要施策)	<p>主要施策名(1) 広域幹線道路に対応した道路ネットワーク整備の促進</p> <p>平成25年度に供用開始となる東九州自動車道（苅田北九州空港インターチェンジ～行橋インターチェンジ（仮称））に連結する、国道201号バイパスや県道天生田・吉国線の整備については、福岡県及び関係自治体と連携をとりながら、早期の実現に向けて取組みを行っていきます。</p> <p>また、流末地区内に計画されているバスストップや行橋パーキングエリア（仮称）と連携した行橋P Aスマートインターチェンジ（仮称）の設置についても、調整を図りながら進めていきます。</p> <p>さらに、都市計画道路行事西泉線の延伸整備の早期完成を国や福岡県に対し要望するとともに、市街地周辺道路のネットワークの整備を行います。</p>
	<p>主要施策名(2) 人・物の流動性を高める道路整備</p> <p>自然公園や工業団地等への交通アクセスの向上を図るため、県道門司行橋線の整備計画、県道の直方行橋線整備の早期着手の促進及びそれに連結する都市計画道路や市道の整備を推進し、通勤・観光等の人の移動のほか、物流にも貢献でき、利便性が図られるよう計画的に整備します。</p>
	<p>主要施策名(3) 暮らしを支える道路整備</p> <p>それぞれの道路の役割を認識し、市民の要望を把握し、維持管理や計画的な整備を行い、緊急車両の通行・通勤通学の道路・物資の輸送等、“命の道”として、市民の暮らしを支える道路整備を計画的に推進します。</p>
	<p>主要施策名(4) 歩行者の安全安心の交通ネットワークの形成</p> <p>地域住民の安全安心を念頭に、生活に密着した道路の整備は、交通状況を勘案し、歩車道の分離や歩道幅員の確保並びにバリアフリー化を図ります。また、道路の危険箇所や交通状況に対応した交通安全施設の設置を計画的に実施し、歩行者の安全対策を推進します。</p>

④ 目標指標	指標名(単位)	過年度実績		評価年度				目標値				達成度の説明 (H24年度)		
	東九州自動車道の整備進捗率（苅田北九州空港IC～豊津IC）(%)	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					H25年度は行橋ICまで、H26年度に豊津ICまで整備完了予定	
	国道201号バイパスの整備進捗率(%)	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					H25年度に整備完了予定	
	国道・県道の整備・進捗に関する市民満足度(%)	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	30.4	-	-			評価年度までにアンケートを実施していない
	市道の整備・利用のしやすさに関する市民満足度(%)	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	23.9	-	-			評価年度までにアンケートを実施していない
	安全で安心して歩行できる歩道に関する市民満足度(%)	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	21.0	-	-			評価年度までにアンケートを実施していない
	行橋P Aスマートインターチェンジ（仮称）の整備率(%)	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	0.0	0.0	0.0			整備に着手していないが、H26年度には完成予定
	バスストップの整備率(%)	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	0.0	0.0	0.0			整備に着手していないが、H26年度には完成予定

⑤ 施策構成 事務事業	事務事業名	事務事業の内容	事業費（人件費込、単位：千円）			優先順位	
			H23年度実績値	H24年度実績値	H25年度見込額		
	1	市道管理・補修事業	現場調査確認、補修依頼及び工事の設計から支払いまでの各種業務	37,998	38,214	37,632	1
	2	道路整備事業（一般単独）	事業に伴う委託・工事の設計から支払いまでの各種業務及び用地補償契約業務	97,084	73,789	90,862	10
	3	交通安全施設整備事業	現場調査確認、工事の設計から支払いまでの各種業務	20,231	20,687	22,390	9
	4	社会資本整備総合交付金事業	事業に伴う委託・工事の申請から実績報告までの各種業務及び用地補償契約業務	109,317	186,058	194,482	7
	5	防衛施設周辺民生安定施設整備事業（城尾・大無田線）	事業に伴う委託・工事の申請から実績報告までの各種業務及び用地補償契約業務	91,150	485,101	186,295	6
	6	特定防衛施設周辺整備事業（石堂・弥五郎線外7路線）	事業に伴う委託・工事の申請から実績報告までの各種業務及び用地補償契約業務	104,060	87,616	84,581	14
	7	再編交付金事業（前田川、道場寺袋辺線、長野間川）	事業に伴う委託・工事の申請から実績報告までの各種業務及び用地補償契約業務	110,450	136,675	141,914	13
	8	橋りょう整備事業	現場調査確認、工事の設計から支払いまでの各種業務及び長寿命化計画作成業務	12,716	11,101	13,377	12
	9	河川・下排水路整備事業	現場調査確認、工事の設計から支払いまでの各種業務	17,610	19,109	19,574	11
	10	災害復旧事業	現場調査確認、工事の設計から支払いまでの各種業務	1,740	2,458	2,467	5
	11	道路確認・境界立会事業	市道及び規格等の確認依頼に対する業務並びに官民境界立会・確定業務	9,714	11,790	11,180	4
	12	占用・通行許可事業	管理用地に対する占用申請及び市道通行許可申請に対する処理業務	2,030	2,030	2,030	8
	13	開発協議事業	開発における道路等の協議・指導業務	700	700	700	15
14	高速道・国県道対策事業	高速道・国県道整備に伴う負担金及び事業促進を図るための協議調整等各種業務	77,387	124,900	184,938	2	
15	道路整備事業（関連道路）	高速道・国県道整備に伴い影響を受ける市道等整備に関する調整及び各種業務	8,488	136,615	73,505	3	

⑥ 施策全体の今後の方針と展望 (主要部長の意見)	<p>地域住民にとって安全で安心な道路網の整備が必要となっていることから、年次計画に則り、計画的に事業を進めるとともに、早急に整備が必要な箇所、あるいは危険箇所等については早急に事業完了を図っていく。</p>
---------------------------------	--

⑦ 総合計画審議会からの意見及び指摘事項等	<p>行橋市では都市計画区域内が市街化区域と調整区域に区分けされていないため、無計画な市街化が進んでいるように感じる。それを放置しておくことで将来手をつけられない状態になり、地域の特色を生かした住みよいまちづくりの弊害となるため、道路の整備（特に都市計画道路の整備）を最も優先としたまちづくりが求められている。</p> <p>そのような中、近年では国道10号バイパスや国道496号、都市計画道路東大橋西宮市線などが整備され、更に東九州道建設に伴う国道201号バイパスや496号の延伸が急ピッチで進むなど、市中心部を取り囲む主要道路が少しずつではあるが充実している。しかし、一方では市街地を始め各地域で狭隘な道路が見受けられ、地域の日常活動等に支障を来しているため、合わせて計画的に整備を行ってほしい。</p> <p>また交通量の多い路線の中にも歩道が未整備の部分も多々見受けられるため、地域に密着した生活道路の整備についても、今後重点的に推進すべきである。</p>
--------------------------	--

⑧ 施策の最終方針 (市長の意見)	<p>本年度から2カ年で都市政策課が都市計画マスタープランの見直しを実施しており、その中でまちづくりの方針や将来像を策定することを予定しております。</p> <p>また、道路整備についても道路ネットワークの再検討や各道路の位置づけを明確にして、道路の整備効果や整備の容易性などを踏まえ、総合的に安全で利便性の高い道路整備の進め方を検討していきたい。</p>
-------------------------	--